

生業システムからみた水田利用の多様性 雲南国境地帯の棚田を事例として -

Subsistence system characterized with diversified utilization of paddy fields:
an observation in remote Yunnan, China

西谷 大
NISHITANI Masaru

1. はじめに

東アジアにおける水田は、かつてはコメを栽培するだけでなく、水田漁撈をおこなう漁場としてや、可食水田雑草を採集するなど多様な生業がおこなわれる場としての役目をもっていた。

雲南国境地帯に 9 つの民族が雑居して暮らす者米谷という場所がある。各民族は、棚田を中心としながら、それぞれに異なった生業システムと生業戦略をもつ。彼らの、水田利用の多様性とは具体的には一体どのようなものなのか、また彼らの水田利用の多様性がどのように生み出されているのかを述べてみたい。

2. 各民族の生業システム

者米谷で暮らす 9 つの民族は、海拔およそ 500m の河谷平地から海拔およそ 1500m の山の斜面にかけて、高度を変えることで棲み分けをおこなっている。このうちタイ、ヤオ、アールー族の 3 つの民族の生業システムと生業戦略をとりあげてみたい。

河谷沿いに住むタイ族は、棚田でコメの二期作をおこなう。河谷沿いのため水は豊富で、村単位で共同で灌漑水路を作り、各家の水田面積に応じて縦灌水路維持のための料金を徴収する。水田では水田漁撈や可食水田雑草を積極的におこなう。ところが畑作はほとんどおこなわず、水田稲作に特化した生業システムだといえる。

者米谷の北側斜面で、海拔およそ 800 ~ 1300m に住むのがアールー族である。彼らは景観的には、者米谷の 9 つの民族のなかで最も壮大な棚田を作る。棚田はいくつかの村が集まって共同で開発する。そして水は常に不足状態にあるため、精緻な灌漑システムによって徹底した水管理をおこない、灌漑水路維持のための料金は、タイ族がおこなっている水田面積によってではなく、各家に配分する水の量によって徴収する。ところが水田漁撈や水田での可食水田雑草の採集はほとんどおこなわない。耕作面積や現金収入の面からみると、むしろ畑作が生業の中心である。棚田の上下に広がる山の斜面の畑はほぼ全面的に開発し、耕作地のローテーションをおこないながら、野菜、トウモロコシ、キャッサバ、レモングラスといった換金作物を盛んに栽培する。

者米谷の南斜面で、海拔およそ 1000 ~ 2000m の土地を利用するのがヤオ族である。彼らもやはり棚田をつくる。しかし棚田や灌漑水路は村で共同で開発するのではなく、各家族単位で作り維持される。また水田漁撈や可食水田雑草の利用は少なく、むしろ森林内での野生動物狩猟や有用植物採集、それにかつては藍の栽培を、現在は草果(中国料理に使う香辛料)栽培に重点をおく。

国立歴史民俗博物館 National Museum of Japanese History

生業システム 生業戦略 交易

キーワード

このように3つの民族は、棚田で水田稲作をおこなうことは共通するものの、生業システムが大きく異なることが指摘できる。

3. 市と各民族の生業戦略

各民族に生業システムの相違が生じる要因の一つは、彼らが居住する生態的な環境の違いが背景にある。しかしもう一つの要因として、者米谷の民族間でおこなわれている交易にかかわる生業戦略の違いが指摘できる。

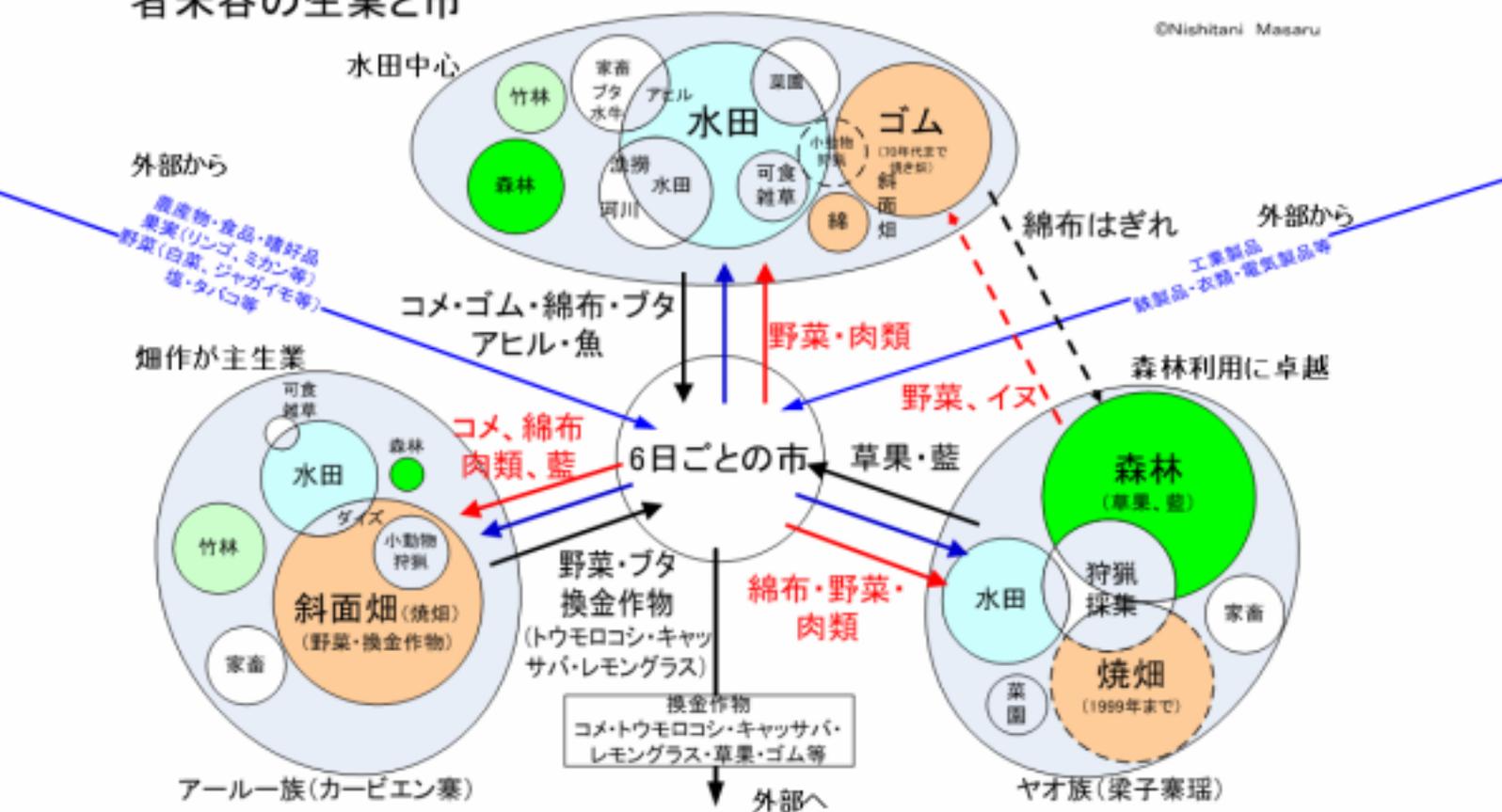
者米谷では、河谷平地の町に6日ごとに1回、定期市がたつ。市では各民族が、それぞれの生産物をもちより交易をおこなう。タイ族の主要な商品は、コメである。また水田漁撈によって捕った魚類も市で販売する。さらに者米谷のブタ肉の流通も独占してきた。アールー族は、野菜を他の民族に売り、ヤオ族は木綿布を染めるのに必要な藍を売って生計をたててきた。各民族は戦略的に特産物を作り出し、六日ごとの市は、それらを交易する場として機能してきた。つまり者米谷という一つの地域が市を介することで、自給自足的な一つの生活世界の形成を可能にしてきたといえる。いわば多民族の住む者米谷という一つの地域が生業複合体を形成し、さらに各民族の生業戦略は市を介することで、より差別化が促進されてきたといえる。

者米谷の生業システムからみえてくるのは、水田利用の多様性を考える場合、生業間の関係性が重要なのであり、またその関係性の複雑さが多様な水田利用を育んできたといえる。そしてそれを生み出してきたのが、各民族の市 = 交易を目的とした生業戦略だったといえる。

者米谷の生業と市

タイ族(上新巻)

©Nishitani Masaru



「者米谷が生業複合体を形成」「市が生業の差異を促進させる装置」